【春季特別公開】重要文化財指定記念

競馬図屏風と馬の美術

午年の本年、当社蔵「競馬図屏風」が国の重要文化財に指定されることになりました。
競馬図屏風は希少な室町時代のやまと絵屏風として高い評価を受け、また競馬を画題とする屏風として最古の作です。
宮廷競馬を描くものですが、春日大社の参道で平安時代から行われてきた競馬を彷彿とさせるものです。この指定を記念して公開を行うとともに、午年にちなみ、春日大社と所縁の深い馬の絵画や工芸品を公開いたします。
古代から日本人にとって馬は貴重で、神様にささげるにもふさわしい神聖なものとして扱われてきました。春日大社では平安の昔から神馬の画像が御殿の御間塀（おあいべい）を飾り、春日祭でも春日若宮おん祭でも馬が重要な役割を果たしてきました。
展示から日本人が馬に寄せてきた特別な思いを感じていただければ幸いです。

重要美術品　流鏑馬木像（平安時代）

奈良市指定文化財
小型絵馬　介筆（室町時代）

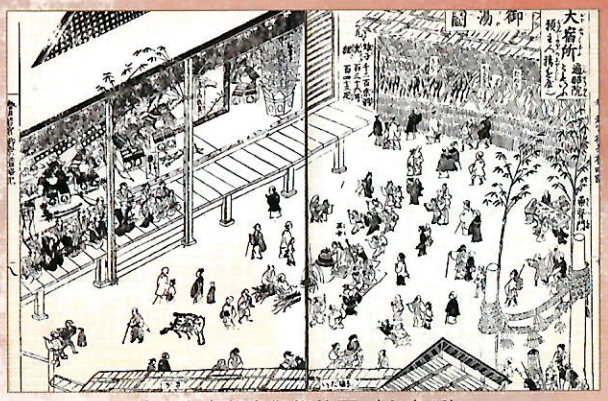
波蛇籠蒔絵鞍・鐙（江戸時代）

春日祭図下巻　矢野夜潮筆（江戸時代）

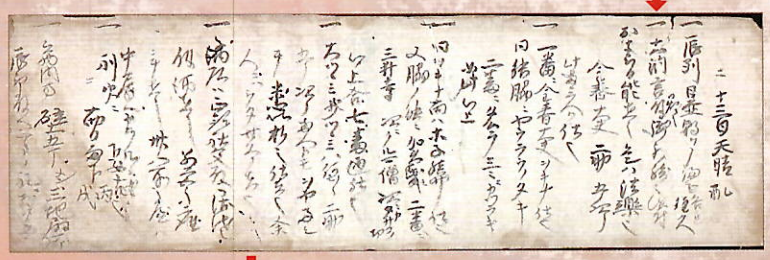
併設展示

豊臣家と春日大社

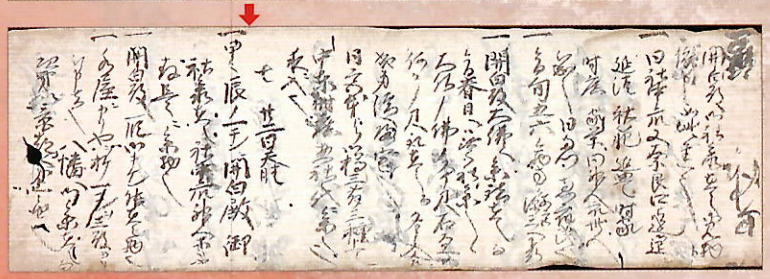
天正14年から18年の春日大社の神官の日記には、豊臣家、特に秀長一家と春日大社の深い関りを示す記述が数多く見られます。
例えば天正14年の記録には、第39次式年造替に関し社頭への材木の集積や管理の指示など秀長の積極的な推進や、秀吉の材木調達の記事があり、一方で勅使が整わずとも支配者として正遷宮を厳行する記事もあります。
また社領については、当初厳しく制限されたものの、折々奉加が行われ、最終的に破格の優遇となった過程もわかります。
秀吉・秀長だけでなくその母大政所（天瑞院）や秀長の妻（慈雲院）の信仰も目立ち、徳川家康に嫁した妹朝日姫の祈祷も仲介するなど一家としての崇敬があったことが知られます。秀長が天正18年の病中には春日大明神が赤童子の姿で守護したという記事も興味深いものです。また秀長が秀吉に先立ち能楽に深い関心を寄せていたことを示す記事も見られます。



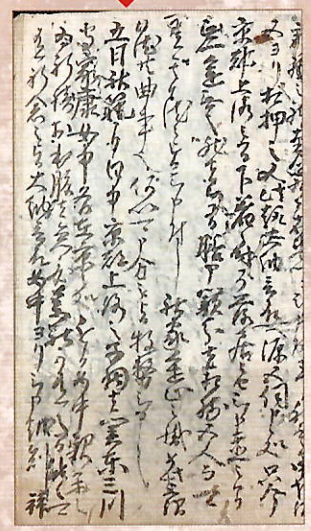
春日大宮若宮御祭礼図（大宿所）
＊別項に大宿所は秀長の命で作られたとある



天正18年中臣祐国記
2月13日秀長の病の祈祷のため春日で法楽能



天正14年中臣祐国記
7月22日秀吉社参



重要文化財
天正17年中臣祐父記
11月5日朝日姫の祈祷を秀長・慈雲院取り次ぐ